＜原爆の絵展・平和のつどい実行委員会＞　　【事業提案型】

戦争の悲惨さと平和の尊さを次世代に伝える活動

取材日：平成２２年（２０１０年）１２月１５日

【活動目的】

広島の原爆投下直後の様子を被爆者が描いた２，２２５枚の絵画の内、毎年３０枚ほど広島平和記念資料館から借りて、戦争の恐ろしさと平和への尊さを、次世代に伝えるための活動を行っている。

①原爆の絵展と東京大空襲写真展の開催
②平和に関する映画の上映
③絵展と同時に児童向け紙芝居の開催

【支援金事業内容】(支援対象経費総額 122,678 円　支援金確定額 61,339 円　支援率 50%)

夏季集中開催に向けて、半年前から原爆の絵の確保と絵展・映画上映会場の確保に尽力し、多くの方が会場を訪れた。今年度の絵展と映画上映の開催結果は、次の通りである。

原爆の絵展

会　　場	日　　程	入 場 者 数
船橋市市役所１階ロビー	７月　５日～８月　９日	来庁者の１割
勤労市民センターギャラリー	７月３１日～８月　１日	１２０名
高根台公民館１階ロビー	７月３１日～８月　１日	１３１名
薬園台公民館展示室	８月　８日～８月　２７日	未把握
三山市民センターギャラリー	８月２８日～８月　２９日	７２名

映画上映会「マヤの一生」

会　　場	日　　程	入 場 者 数
高根台公民館講堂	８月　１日	６０名
二和公民館講堂	８月　５日	８０名
薬園台公民館講堂	８月　８日	３０名
三山市民センター	８月２９日	３０名

二和公民館　原爆の絵展

高根台公民館　映画上映会

【事業に期待される効果】

戦後６５年を経過し、国民の大半が戦争を知らない。戦争の悲惨さと平和の尊さを多くの市民に啓発し、親・子・孫へと次世代に引き継ぐ事は意義深いものである。船橋市の平和都市宣言の精神と連動して、平和で住みよい船橋をつくる一助として寄与することが出来る。

原爆の絵展を２７年間継続してきた経験から、市民に徐々に浸透しつつあり、今回のチラシの増刷と戸別配布により、戦争と平和に関する認知度を大いに高めたと思われる。また、原爆の絵展の入場者数は、微増ではあるが前年度より上回った。

さらに、絵展の感想文も多数受けており、意識の高まりを感じ、大きな効果が発揮できたものと思われる。

＊（感想文の事例）

- ただただ悲しいです。絶対にあってはならないことです。この事実を忘れてはいけないことを、原爆を知らない子どもたちにも伝えていくべきです。
- 絵をみているだけで胸が苦しくなります。世界の人に訴えるには言葉のみでなく、絵などを観ていただいていかに残酷なことなのかを知っていただいた方がいいと思います。
- 母として、平成生まれの子どもたちにくり返してはいけないこと、命は大切であることを話して育てていきます。

【今後の活動】

今後は、絵と映画以外に、原爆、戦争と平和に関する資料ならびに文献などを展示して、より深く理解を求めてもらうことが必要だと感じている。

また、若い世代に伝えていきたいと考え、宣伝に励んでいるが、なかなか若い世代に来てもらえないのが課題である。子ども連れの若いお母さんが見にきてくれるが、母親自身も戦争を体験していないので、原爆の絵を見てもわからないこともあるが、それらについて理解していただくために、積極的に働きかけをしていきたい。

また、上映映画の内容について子どもでも理解しやすく、興味をもてるように検討し、より関心を高めるべく、活動していきたい。

【取材を終えて】

本来、絵展会場、映画上映会場で直接取材すべきであったが、７～９月の夏休み期間に集中した企画のため、結果的に１２月の事業報告の中での取材に留まったのが残念であった。会員スタッフの、戦争と平和へのひたむきなＰＲ活動の力強さを感じた。

スタッフが小・中学校をはじめ会場周辺の民家をくまなく戸別にチラシを配布して、認知度を高めると同時に、来場者数を増やす努力には敬意を表したい。児童向け紙芝居も制作している。今後も多くの市民に、継続して戦争の悲惨さと平和への尊さを訴える活動を展開して欲しい。また、絵展・上映会場におけるボランティアの応援を期待したい。

関わり先（連絡担当者）
原爆の絵展・平和のつどい実行委員会
事務局長　春田　実章
℡：０４７－４４９－２７２５